



森のなかま

2009年6月号

NO. 14 (継続159)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

第61回全国植樹祭かながわプレ大会2009 2会場で開催! 5月24日(日)

兼 緑の祭典“かながわ未来の森づくり”(県植樹祭)

第2回 秦野市植樹祭

第1回 南足柄市民植樹祭

61回目にして初めて神奈川県で開催される全国植樹祭が来年春季と迫り、機運は次第に高まってきています。

大会会場となる秦野・南足柄両市をはじめとして、サテライト会場として参加する13市町も、期待感を膨らませています。大会会場及びサテライト会場が県下13カ所に及ぶ取り組みは過去に例を見ない最大規模の大がかりな植樹祭となります。

そのような盛り上がりを見せる中、5月15日には「かながわトラストみどり財団」から、秦野市長・南足柄市長に「緑の協力員」の委嘱状が交付されました。これは、両市が全国植樹祭の誘致を契機として植樹祭実施後も植樹に関する取り組みを継続して行っていくことへの力強い支援を受けたこととなり喜ばしい限りです。

この「緑の協力員」制度は、植樹イベントを継続的に実施するとともに、緑の募金活動や地域の緑化活動の輪を先導的に広げる役割なども期待されるものと言われています。

プレ全国植樹祭は、来年の春季に迫った「第61回全国植樹祭」を多くの県民に知っていただくとともに、森林に対する興味や関心を高め、緑を守り育てることの大切さを理解してもらうことを目的として、開催されました。我が会からは45名のインストラクターが参加して植樹指導にあたりました。

当日参加された皆さんは、記念植樹のあと、整備されつつある会場を間近にして、「全国植樹祭」の雰囲気を実感することが出来ました。

植えつけた苗木に天からの贈り物は「恵みの雨」でした。

神奈川県における森林づくり活動は、全国に先駆けた先進的な取り組みとして注目されてきましたが、今後一層神奈川県における「県民参加の森林づくり活動」が発展していくことを願っています。

秦野会場 秦野戸川公園地区 (植樹・式典)
南足柄会場 南足柄市塚原地区 足柄林道沿い (植樹)
足柄森林公園丸太の森地区 (式典)

イロハモミジ、ヤマザクラ、ヤマボウシなどの広葉樹を主とした植樹後の式典では、県知事による主催者挨拶に始まり、代表者記念植樹・みどりの誓い・丹沢賛歌・劇等が行われました。その後のエピローグでは、地元で活躍されている人々による踊りや演奏が披露されました。

また、サービス広場には両会場あわせて 44 店にも及ぶ各種団体の出展ブースがあり、会場は熱気に包まれました。それぞれのブースを見て家路につかれた参加者の皆さんには、「緑への思い」が胸深く刻まれたに違いありません。

秦野・南足柄 2 会場の参加者総数は約 3000 名で大盛況のうちつつがなく終わることが出来ました。平成 22 年春季の大会が、多くの県民の理解と協力を得て開催されることを願っています。

(全国植樹祭担当 柏倉 紘 4期)



秦野会場の
いろいろ



主催者として、松沢知事のご挨拶



知事も植樹に参加！



一般参加者植樹風景



丹沢アルプホルンクラブ



きれいよー
(ハイテク
万華鏡)



グッズ販売のお店



写真：広報部・鈴木松広

私の認識

野鳥その67 高橋 恒通

同じ呼び名で2種類の野鳥の第2弾は、“ブッポウソウ”です。業界用語で“姿のブッポウソウ”と“声のブッポウソウ”についてです。

第1弾の前稿は冬鳥の“ミヤコドリ”に対して今度は夏鳥の“ブッポウソウ”で、先ずは「姿」のブッポウソウ（漢和名：佛法僧、英名：Eastern Broad-billed Roller 体長L=30cm）です。正直に言って私はその「姿」を残念乍ら観てませんが、ビギナーの頃に県下あちこちの探鳥会に参加した時、城山湖の辺りへ行った折に、濁った「ゲェ〜ゲ」と言う声がウグイスの声に混って聞こえたのでした。その時にリーダーが“今のゲェ〜ってのはブッポウソウの声ですネ”と静かに言って呉れて、声のする方向を双眼鏡で暫らく探したのですが、誰も見付けられませんでした。リーダーが「この鳥は居れば見付け易い処でゲェゲェと囀るんだけどナ」と呟いてました。「姿の」と言う形容の意味不明ですが、図鑑によりますとその体色は、頭部が黒褐色で、背面も胸前も金属光沢のある青色、そして嘴と足が赤橙色です。



ブッポウソウ

飛ぶと初列風切羽の処に白斑が現われ、印象に残る体色をしています。

我国での棲息環境は湖沼や溪流に接する山林や平地の林との事ですが、樹洞やムササビの古巣のある様な樹木の在る森林が必要との事です。

飛んでる大形昆虫類を空中採食するそうです。体色も声も特長のある野鳥ですが遭遇機会の少ない鳥だと認識しております。

次は「声のブッポウソウ」と呼ばれるフクロウ目フクロウ科のコノハズク（漢和名；木葉木菟、英名：Oriental Scops Owl、体長L=20cm）です。

我が国で観察できるフクロウ目フクロウ科の野鳥の中で最も小形のフクロウです。

寸法的にはモズと同じ程度の小鳥です。

体色は全体に暗褐色の羽色の中に白色の羽が混ってます。特に胸前から下面にかけては白色の地に暗褐色の羽が混った色です。

話は少し変わりますが、漢和名の中に木菟ミズクやフクロウフクロウの文字が入るフクロウ目フクロウ科の野鳥には“羽角”ウカクと呼ばれる耳の如き恰好の羽が目立つ種が多いと私は認識しています。

コノハズクには羽角がありますが、私は実物を観た経験がありません。然し啼き声は今迄に2回聴いています。



コノハズク

「声のブッポウソウ」と呼ばれる通り漢字で書くと“佛法僧”、実際の声は夜の闇の中で“ブッキョッコー”と聞こえました。私も会員の日本野鳥の会沼津支部が、夏の夜に愛鷹山アシタカでの探鳥会 - 主目的がヨタカを観てコノハズクの声を聴く - で経験しています。

面白い事に2回共、ヨタカは夕方に姿を観せて呉れましたし、コノハズクの声は午後8時過ぎに「今夜は空振りらしいのでそろそろ引き揚げましょう」とのリーダーの発言に促されて渋々と戻りかけたその時に、背後の暗闇の中から“ブッキョッコー、ブッキョッコー”との啼き声が届いてきたのでした。「やっと出たネ」と何人かが同時に呟き、参加者全員が立ち止まって暫らく聴き入りました。

話は変わりますが、コノハズクは愛知県の県鳥です。理由は愛知県東部の蓬萊寺山で夏の夜に“仏法僧”と啼く鳥が棲息して居り、これを昭和10年（1935年）にNHKが録音する為に訪れた折に、声の主がコノハズクと判明したとのエピソードに起因してるからです。但し最近では蓬萊寺山で啼き声を聴く事は殆ど無いそうです。

<参考資料>

- ・日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説 / 叶内拓哉、分布図・解説協力 / 安部直哉、解説（鳴声） / 上田秀雄、山と溪谷社
- ・日本の野鳥、山溪カラー名鑑、編集：高野伸二、森岡照明、叶内拓哉、蒲谷鶴彦、山と溪谷社
- ブッポウソウ：ヤフー百貨事典より
- コノハズク：ウィキペディアフリー百貨事典より

…これら全てが心身にとって快適であり、いかに心地良いものであるかを存分に実感することができ…(友谷さん)

・…「時間ですよ」と声をかけられるまで、その揺らぎを飽かずに眺めていました。これは体験で得た発見でした。(飯澤さん)

自然観察会での「五感を使って」とも違い、癒しの奥深さが感じられた。(内野さん)

- - - 先ず体験・実感を！！

**森林癒し部会 5月6日(水・祝) 会員 下見・研修会
5月14日(木) 一般 体験・試行会 報告 - - -**

森林癒し部会として、上記連続シリーズを手始めに、21年度活動をスタートさせました。それぞれ、13名・14名の程よい参加者があり、充実した会を実施することができました。自然観察部会・やどりき部会・森林文化部会で運営委委員等として精力的に活躍されている初参加の方々から、報告・感想をよせていただきましたので紹介します。併せて、アンケート結果の一部もお知らせします。

会員 下見・研修会 参加体験記(報告)

森林癒し部会が実施した下見・研修会に体験参加してきたので、以下に報告いたします。

5月6日(木・祝) 午前9時過ぎ、七沢森林公園に集合。

9時30分、趣旨説明に続いて、公園管理事務所で各自の心拍変動数等に基づくストレス点数等を測定(約3分)後、森林公園内の散歩道(セラピ-コ-ス)にむけてスタート。

今日は、森林ボランティア活動に従事している者ばかりで、日頃から森林には関心が高いわけだが、スタッフから、各ポイントごとに森の色・形(視覚)、せせらぎの音・木の葉の音(聴覚)、森の香り・樹木の香り(嗅覚)、木肌・土・そよ風の感触(触覚)、(味覚)等々、人間の持てる機能をフルに動員して感じ取るよう誘導される。

また、森林内での呼吸法や気功についても、空や大地から肉体に「気」を取り込む方法を学んだ。さらに樹林内の狭い道を抜けて広い大地の高木帯に出て、「自分の木」との語らいの時を過ごす。小雨のため中止したが、森の中にシートを広げて大空を仰ぎながら樹冠の揺らぎを楽しむ方法も教えられた。これら全てが、心身にとって快適であり、いかに心地よいものであるかを存分に実感することができた。森林内での総合活動として大変有効であり、全員の方が将来指導できるように努力をつむことが望まれる。

散歩コ-スから帰ってストレス点数等を測定。やや改善がみられたのでホッとした。

受講者からは、散歩中の速度について少し急ぎ気味ではないかとの声も出たが、おおむね皆さん満足であった。午後、周辺プログラムとして、広沢寺温泉で「里山定食」のお昼と入浴(順序は逆にして欲しかった)。さらには、ハンドトリ-トメントのさわりを体験できた。

現在、厚木市は「森林セラピ-基地」として力を入れ始めており、当会としても、積極的な活動を望みます。
(1期 友谷)

(5月6日) < 5月14日 > のアンケート結果(一部)

1: 森林の癒し体験の効果は感じられましたか。

おおいに感じた(67%) < 91 > 多少感じた(33) < 9 >

どちらとも言えない 全く感じなかった

2: 森林癒し体験にまた参加してみたいと思いますか。

是非参加したい(83%) < 82 > 場合によっては参加したい(17) < 18 >

どちらとも言えない 参加しようとは思わない

3: (参考) 自然観察会との違いは感じられましたか。

おおいに感じた(50%) < 60 > まあまあ感じた(42) < 20 >

どちらとも言えない 感じなかった 不明(8) < 20 >

5月6日(水・祝) 会員 下見・研修会の感想

森の中にはいると気分が良くなるは確かですが、本当に効果があるものなのかどうか体験しました。

先ず管理事務所で散策開始前の数値を測定しました。それから約1時間半五感を意識して、遠景を眺め、風やせせらぎの音を聴き、時田さんの指導で森の気を胸一杯に満たし、樹の温もりを肌で感じて、管理事務所に戻り数値を測定しました。自分では分からなかったのですがストレス度は-7、血管年齢は-5と数値が良くなっていました。森を歩くと気持ちがよくなるとはこういう事かと実感しました。今回の体験で一番印象に残ったのは気に入った樹を見つけその幹に寄り掛かって樹幹を眺めた時のことでした。空を覆っている木々の梢が不規則に、しかし決してお互いに触れ合うこと無く不思議なリズムで大きく揺れているのを観ていると何処からか「どっどど どどうど どどう・・・」とあの風の又三郎の歌が聞こえてくるような気がしてきました。

「時間ですよ」と高崎さんが声をかけるまでその揺らぎを飽かずに眺めてました。これは体験で得た発見でした。(9期 飯澤)

「よいおしめりで」

セラピ - 基地である七沢森林公園で実際にどんなことをするのだろうかと小雨の中を興味津々で参加した。五感を使った森林癒し体験プログラムは自分と向き合う時間となった。先ず、ストレス度他の測定。自分が思っているより精神的ストレス度は高かった。

森の架け橋の上から観た遠景は、幼い頃暮らしたふるさとの山を思い浮かべ、ふと心に「よいおしめりで」というなつかしい挨拶がよみがえった。

新緑の木々を観、森の音を聴き、森の香りを嗅ぎ、森の感触を楽しんだ。樹の根元に寝ころび樹幹の揺らぎを見つめてゆりかごに揺られるような感覚を味わった。

午前のプログラムだけでも十分癒し体験ができた。自然観察での「五感を使って」とも違い、癒しの奥深さが感じられた。

ただ、研修とはいえ解説が多かったように思った。もっと参加者の感性に委ねていいのではないだろうか。そう思ったのも私が完全に癒しモードになっていたからであろう。(9期 内野)

「解説」・「感性」に触れられてのご指摘、さすがだと思います。ありがとうございました。ただし、同時に気づかれているように、会員の「下見・研修」として押さえ、一般の「体験・試行」とはあらためて区別していただきたいと思います。

ちなみに、5月14日(木)一般 体験・試行会の感想 として

「今まで参加した何回かの自然観察会と違って、次から次へと追われるような説明を聞かなくても良く、ゆっくりゆったりと森林・自然を楽しむことができました。参加して本当に良かったです。次回も是非参加したいと思います。」(60代女性)という声もありました。

なお、まさにこの課題に触れる講話・演習「森林内の癒し活動におけるカウンセリングマインド」を、6月21日(日)13:30、男女共同参画センター - 横浜で予定しています。多数の方の参加を願っています。(別冊参照)

以上、報告・感想・アンケート結果を、どのように受け止められたでしょうか。

今回は、紙面でも、癒し部会としての説明・解説は、極力避けました。参加者の感性・生の声を、先ず、受け止めていただきたかったからです。そして、前向きに参加・協力していただき、今回の参加者のように、体験・実感してほしいと願ったからです。最後に、森林癒しにしても、自然観察にしても、それぞれ良さがあり、どちらが良いとか、どちらも同じであるとか、安易な議論は避けたいと思います。それぞれの良さをふまえ、多様なアプローチをし、より多様でより多くの人達を、森林に呼び込みたいと考えるからです。よろしく願います。(高崎)

「・・・森についての科学的な解明も、持続可能な利用の仕方も、そして森を敬う気持ちも、そのどれもが、未成熟であるがゆえに、結果として森の消失や破壊やアンバランスを生み出している。森そのものの問題ではなく、人間の側の問題だ。

そして、森に対する人間の力量を上げるには、結局森に入るのが一番近道だと思う。スタイルもやり方も頻度もさまざまでもいい。でも、利用することも含め、森に触れ、森を学ぶしか手立てはないといっている。森を知らずして、森の十全な存続などあり得ない。・・・」浜田久美子「森の力」より

本の紹介

堤 洋 8期

< 自然との共生 > というウソ
高橋 敬一 著

森を歩く

森林セラピーへのいざない
田中 敦夫 著

真夏の鬼首、初夏と初秋には丹沢のブナ天然林内で全身の力が抜け、身に潜んでいた疲れや悩みが一度に吹き飛んだ経験があります。時々、その体験を鮮明に思い出しますがこれが「森林の持つ癒し」かなと思っています。この本は、そのような体験を味わえるようなしつらえのされた森林（コース）の紹介と共に「森は本当に人を癒せるのか」という命題に挑戦し、その体験を味わえる10箇所のセラピー基地の紹介をしています。構成は三部より成されており、第一部が先ほどの「癒せるのか」について解説し、第二部が10箇所のセラピー基地の体験ルポ、第三部で「人が森から得られるもの」として癒しに基づく疑問等についてまとめており、「森の癒し」全般が理解できます。最初に述べたブナ天然林内の体験は、この本や浜田久美子氏、上原巖氏の本を読むまでは漠然としたもので、単なる個人の感性かと考えていたものが明確に理解出来てきました。10箇所の基地は全国に展開され、それぞれ個性的な特徴を持つものになっています。現在全国で31箇所、セラピーロードが4箇所、その他に推薦されている候補地が4箇所あるとのこと。それぞれに身近な基地が雰囲気を持つ場所は各所にあると思えるので「癒し」を求めて探してみるのも一法かと思えます。森林といえばフィトンチッドの香りですが、この意味は「植物殺菌素」という意味もあるという。ほのかな香りを五感で感じることも「癒し」の効果の一つと思えます。この本のなかでこれらコースの散策にはコースガイドをお願いしてできれば一人で、少人数で回ることを薦めています。同時にガイドは五箇条の要件、つまり、**でしゃばらず、過度の説明を避け「森を楽しめる」雰囲気造りをすべき**と著者は書いています

我々、主にBコースを利用した森の案内人活動をしておりますが、この五箇条の要件を参考にすべきかなと思いつつ、この本の紹介を書いております

(角川 S S C 新書 1050 円 + 税)

著者は「自然との共生」とは「他人による自然破壊を止めさせ、私個人にとって親しい自然の中で、私および私の遺伝子の安心な生活が保証されること」、言い換えれば「私個人の郷愁のこもった風景を、将来にわたって安定的に存続させること」と定義している

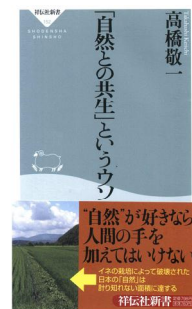
この説を19編の事象(意見)にまとめその「ウソ」を証明している。最後の2編で上述の定義や将来への提言をまとめている非常にユニークな書籍ですこの本の紹介者である私は個々の事象で著者の意見に共鳴若しくは納得することも数多いが、結果は全面的に納得・賛成できるものではなくこれから反論することを考えています。この本を題材として「真」の「自然との共生とは」を私個人だけでなく読者にも考えて頂きたく紹介したものです。論議を期待しております。

19の事象は、里山保全、レッドデータブックとは何か、自然とは何か、生物多様性とは何か・・・等々。卑近な事例として渡良瀬遊水池がある。元々足尾鉾山の鉾毒の沈殿池として住民を立退かせて整備した遊水池であって、アシの自然が残る貴重な自然と言われているがアシの周囲の汚物や廃棄物に目を向けず、本質的に鉾毒の沈殿池なのに、これが**貴重な自然なのか?**

かつて、京都北山杉の林を人工景観といった学者が居られた。そのとき私は違和感を感じたがよく考えてみると人工景観に違いはない。**純粋な自然ではない。**

概ねヤブツバキクラス域に属する日本では「自然」を人間が破壊し尽して現在の**自然(景観)**に人工的に創出してきたもので、これは善悪を問うより「**住み易い生活空間を創り出してきた**」からだと思ふ。今更、人間は天然林の中での生活等できるはずもなく、将来もその意味での自然破壊は続くものと思ふ。

ここで、マスコミに煽られることなく「**自然との共生**」について考えてみることも我々にとっては必要なことであり、意見を述べ合うことも必要と思ふ。(祥伝社新書 760 円+税)



活動短信

4/8 ~ 5/16

高校一年生による奉仕活動(植樹)

日 4月8日(金)
 場 相模原市 鳥居原園地
 参 高校生と教師 240名
 主催 宮ヶ瀬ダム周辺振興財団関係者
 イ L小野、塩谷、浦野、宮本、

都立桜町高校(世田谷区用賀)一年生によるドウダンツツジ120本の植樹。

当日は前日来の雨が朝も止まず雨中出発。途中より薄日のさす天気となり安堵するも、作業開始の12時過ぎより又降り出し14時頃業中は雨、作業終了頃より降り止む皮肉な天気。植栽場所は法面部の階段状テラス部分のため、足場は良いものの幅が狭く多人数の作業で輻輳し、多少の混乱はあったが、幸い事故も無く予定どおり時間内に終了した。

カリキュラムにこのような奉仕活動を取り入れた学校関係者に敬意を表すると共に、悪天候の下でおそらく始めてであろうスコップでの作業を経験した新一年生240名にエールを贈りたい。(記 7期 小野)

鎌倉八幡宮「槐の会」第3回森林活動

日 5月10日(日)晴れ
 場 やどりき水源林
 参 84名(会員、大人79名、子供1名、スタッフ4名)
 県 金子、小司、
 イ L中島、落合、高崎、相馬、須長、
 齊藤、久保、酒井、松山、木島、

午前のパートナー林内整備は、参加者が3グループに分かれて前回活動の間伐材を使った丸太ベンチ作り(31名)、アニマルヘッジ林内整備(29名)、前回植林の捕植とシカ避けネット補強(20名)を行いました。午後は、周遊歩道Bコースと林道(水棲生物観察)の2グループに分かれて水源林自然観察を行いました。間伐材の有効活用と立派なベンチの完成による達成感が好評でした。またノコギリを始めて使う人、前回植林した木が芽吹き出していることに喜びを感じたりと充実した活動となりました。関東各地で今年初めての真夏日になった日でしたが林内の渓流を渡って吹き抜ける風は涼しく森林の効果の一つを実感された1日でした。反省点は、ネット補強のために用意された番線が太すぎて使えなかった事。事前に使用する工具類を確認して準備する必要があった。良い点は、落合さんが作成したベンチ作りのイラストマニュアルが簡明的確に出来ており好評、今後の事前準備の手本にしたい。

(記 10期 木島)

自然観察部会の探鳥会(研修)

日 5月10日(日)晴れ 9時~15時
 場 大磯・照ヶ崎海岸 花水川
 講師 高橋 参 14名

JR大磯駅9時に集合し、粋な切り通しを抜け照ヶ崎海岸へ。本日本命のアオバトの飛来を、まだか、まだかと、待つが一向に見えず、参加者は磯に戯れ始めてしまった。ウミウシ等の水生生物を見つれたり・・・探鳥会はどうなったかな?しばらくすると4羽のアオバトが飛来し、眼前の岩場で全体が緑色の美しい羽色を見せてくれた。花水川河畔に移動し、コサギの背の飾り羽や、カワラヒワのちょっと太目の翼と尾に黄色の班が凄く印象に残りました。

本日観察できた鳥の種類は24種。最後のメは何と水生生物、うなぎの蒲焼とギンギンに冷えたBEERでまとまりました。(記 9期 小澤)

木工体験教室 ~野鳥観察と巣箱づくり~

日 5月16日(土)曇りのち小雨 10時~15時
 場 県立21世紀の森
 参 19名(内子供3名)
 AGSスタッフ 布施(あっきー)さん他3名
 サポートクラブ 2名

イ L久保寺、武本、
 午前のプログラム野鳥観察会は、森林館前でガビチョウの大合唱に送られ出発する。最初に木工センター近くの木に最近作られたと思われる巣穴(コゲラ?)を観察してから、運動広場を通りどんぐりコース上部を上がっていく。この時期、木々は豊かに葉をつけているため、鳥の声はすれど姿は見えぬ観察会となった。そこで子供たちが見つけた昆虫や植物などの話もして時間を活用する。コース途中でシジュウガラとコゲラをスコップに捉えられたのは何よりであった。ニシキウツギが見事な内山林道を下る頃小雨となり観察会は定刻に終了する。鳥合わせは10種で姿を観察できたのは内4種であった。午後の巣箱づくりは、前加工された板材の組立と電気ゴテによる絵書きであったが、熱心な親子の共同作業も見られ参加者全員が楽しく巣箱づくりに挑戦・完成させ終了する。

(記 7期 久保寺)

やどりき水源林
ミニガイド

5月のトピックス

・草木も虫も元気です。川ではカジカガエルが鳴き始めています。姿は見えなくても、野鳥の声も楽しめます。



6月水源林

・梅雨の季節、沢山の雨で森林も元気になります。ウツギがどんどん咲きだします。花々の饗宴・・・楽しみですね。「水源林ニュース6月号」をご期待ください。

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・祝日午後1時より1～2時間程度（冬季休止）

集合：水源林入口ゲート前

内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

問合せ：(財)かながわトラスとみどり財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

ヨコハマDEKIGOTO展

開港から150年間の事件簿

横浜が開港してから今年で150年になりますが、その間には、実に多くの出来事がありました。

会期・6/1(月)～8/16(日)

会場・中央図書館1階展示コーナー

*期間中、展示物の入れ替えを行います。
第1期:6/1～6/29 ベリー上陸から開港50年まで。

第2期:6/30～7/20 開港50年から100年

第3期:7/22～8/16 開港100年から現在まで



森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

< 手書き原稿送り先 >

鈴木松弘

〒253-0062

茅ヶ崎市浜見平16-2-401

Tel/Fax: 0467-83-8461

Mail: suzuki-m@tbc.t-com.ne.jp

< メール原稿送り先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax: 045-476-4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈良2丁目10-5

Tel/Fax: 045-961-6695

Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax: 042-796-6011

Mail: morimoto@bikkuri.co.jp

編集後記

昨年8月号の編集後記に亡くなられた服部インストラクターのことを書きました。その後奥様とお手紙をやりとりさせていただき、改めて皆さんから親しまれ、惜しい方をなくしたと、一緒に活動できず残念でなりません。(金森)

コノハズクの声、何時か聞いたような気がします。フクロウの類は我が家では大人気の鳥です。来月の野鳥は何でしょうね！楽しみ。(森)

通常総会では、お世話さまでした。総会が終わったら、次が新型インフルエンザ(対応)中々、安穏な日々は、来てくれません。(森本)

8月にクラフト教室を行う、山北町中川の水源交流施設の下見に行ってきました。木の香りのする新しい施設で、来年には紙すき工房も設置されるそうです。(井出)

最近、特に昆虫の脳の研究が進んでいると聞いていいる。その中で、ショウジョウバエの脳は人間と変わらぬ五感を持っているそうだ。他方ミツバチの激減で、果実が生る野菜・果物がピンチ。ある学者が、世界的に不足すると、農産物が激減、人類の存在を脅かすそうだ。物質文化の人間の脳は退化？、自然から人間は大いに学ばなければならないのか。(鈴木)

ギリシャ、エジプト、ウズベキスタンの歌、舞踊、演奏に堪能・・・久し振りに感動！興奮したコンサートでした。最後の「ピレウスの子供たち」を全員で大合唱！ちょっと覗いた新聞で応募。当選して・・・充分癒されました。(村井)

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(領...価...2,000円...送料共).....

編集人：森本正信

広報部：井出恒夫、鈴木松弘

村井正孝、金森 巖

森 義徳

身近な日本の山旅から世界各地の山岳リゾートや辺境の地までアルパインツアーは自然を愛する方々を地球のデコボコへご案内します。次の山旅は、アルパインツアーで出かけてみませんか。*****

ALPS アルパインツアーサービス株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル

Tel:03(3503)1911 info@alpine-tour.com

<http://www.alpine-tour.com>

